

第17回最上小国川流域環境保全協議会の概要について

標記の協議会について下記のとおり開催しました。

「工事の進捗状況についての報告」「前回までの協議会における指導事項と対応」「平成30年度環境影響調査の報告」「来年度の施工予定」および「今後の環境調査」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。その概要は下記のとおりです。

記

- 1 日 時 平成31年3月13日（水） 13:30～15:30
2 場 所 最上総合支庁講堂
3 出席者 10名（3名欠席）

原慶明委員長、板垣善悦委員、伊藤武美委員（伊藤英一代理）、今井正委員、梅田信委員、高橋光明委員（信夫榮代理）、忠鉢孝明委員、東海林孝委員、柳原敦委員、横倉明委員

4 審議の結果

各委員からの主な御意見（要旨）

- ・ 梅田委員 **【濁度観測】**
 - ・濁度観測地点の見直しについては、既設調査地でメンテナンスを充実させれば欠測日数も少なく、問題ない。
 - ・河川の流量が増えた時の、川の濁りの傾向について詳細に分析すること。
 - ・今後、ダム完成前後の濁度の傾向について比較をしていくことが大切である。
- ・ 今井委員 **【猛禽類調査】**
 - ・希少猛禽類の繁殖活動状況により、生息や繁殖に工事が影響を及ぼしているものではない。**【ヤマセミ調査】**
 - ・ヤマセミの繁殖が確認されており、生息や繁殖に工事が影響を及ぼしているものではない。
- ・ 横倉委員 **【イチゴナミシヤク調査】**
 - ・イチゴナミシヤクは生態も不明であり希少性が高く、H26年に確認されて以来、本調査では見つからないが、希少種保護の立場から調査を継続してほしい。**【ヒメギフチョウ調査】**
 - ・ヒメギフチョウについては、山形県内で増加傾向が見られており前回協議会にて調査依頼したが、その結果として、生息確認できなかったのは残念であった。
- ・ 原委員長 **【ナガミツルケマン調査】【付着藻類調査】**
 - ・試験播種で本種の適地となる生育条件がほぼ確認されており、湛水区域外でも保存できることが確認できた。
- ・ 忠鉢委員 **【魚介類調査】【底生動物調査】【付着藻類調査】【河床状態調査】**
 - ・本調査で確認された重要種については、適切に見守っていくことが大切である。
- ・ 信夫代理 **【濁度観測】**
 - ・小国川漁業協同組合では、ダム工事で発生する濁水の処理について確認している。その結果、適正に処理されており、ダム工事による濁りの影響は無いと考えられる。**【魚介類調査】**
 - ・重要種を保護する観点からは、そのエリアを通年禁漁区とかに指定するといった方法もある。
- ・ 柳原委員 **【その他】**
 - ・今後は、試験湛水による環境の変化に注視していくことが必要である。

【開催概況】

